

ごみの分け方・出し方

資源ごみ分別収集の十月試行について、七月号でお知らせしましたが、試行後のごみの分け方、出し方は次のようになります。

燃えるごみ

今まで、燃えないごみとして取扱っていたビニール、プラスチック、発砲スチロール等が燃えるごみとなります。

ただし、ビニール、プラスチック類と生ごみ、紙くず等は別容器に分けて出してください。ペットボトル等の金属製のフタは、燃えないごみに出してください。また、燃えるごみはダンボール箱には入れないでください。ダンボールは、資源ごみに出してください。

燃えないごみ

ガラスやカミソリ等のケガをしやすいものは、危険のないようにして出してください。

燃えないごみは、ダンボール箱等には入れず、ポリ袋に入れて出してください。

また、破損していないガラスびん及び空き缶は、資源ごみに出してください。

資源ごみ

資源ごみの種類は、空きびん、空き缶、古紙の三種類で、収集は月一回、収集ステーション数は、燃えるごみの収集ステーションの三分の一程度となります。空きびん、空き缶は、中身を捨て、軽く水洗いし、そのまま指定のコンテナに入れてください。

古紙は、種類別にヒモでしっかりとしばり、雨や水にぬれないよう、収集ステーションの中に入れてください。

粗大ごみ

粗大ごみは、必ず住所、氏名を記入し、ダンボール箱等に入れず、そのまま出してください。

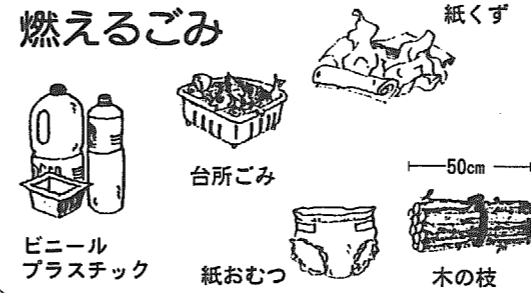
また、粗大ごみは通常の収集ステーションには絶対に出さないでください。

なお、ごみの分け方、出し方の詳細については、九月にごみ出し表を各世帯に配布しますので、ご覧ください。

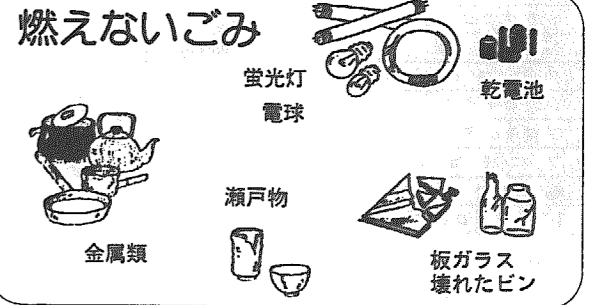
新たな分別収集の実施にあたっては、分別の徹底等、村民のみなさんの果たす役割が重要となりますが、ご協力をお願いします。

また、粗大ごみは通常の収集ステーションには絶対に出さないでください。

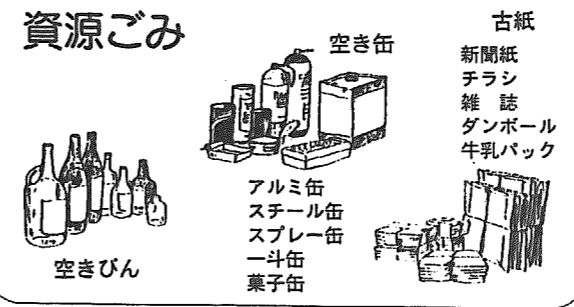
燃えるごみ



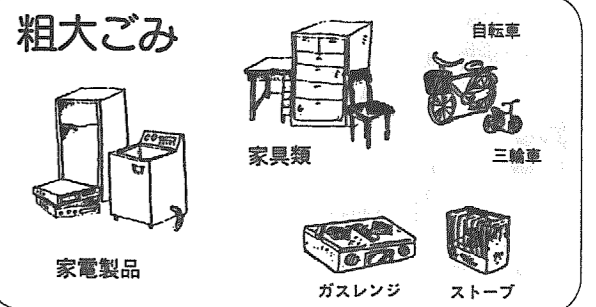
燃えないごみ



資源ごみ



粗大ごみ



村で収集・処理しないもの



今後のまちづくりに対するアイディア・提案 (自由回答3)

~ 町制施行に関する住民意識調査結果 (その9) ~

医療・福祉

【横越地区】

- ・公立の総合病院がほしい。
- ・救急介護車の設置、消防の本部か支部の設置、あるいは所属課の増員を実現してほしい。
- ・特別養護老人ホームの整備を早急にしてほしい。

【沢海地区】

- ・緊急医療体制を改善してほしい。
- ・総合病院の誘致を急いでほしい。

【木津地区】

- ・総合病院がほしい。

【二本木地区】

- ・総合病院を誘致する。
- ・村に救急車を備える。

【小杉地区】

- ・総合病院を誘致する。
- ・村営の老人ホームを設立する。

【駒込地区】

- ・病院がほしい。

町制施行について

【横越地区】

- ・村から町に移行するにあたってのメリット・デメリットの説明が不十分である。
- ・町制施行にあたっては「横越」にこだわらず、新しい町名を公募してはどうか。
- ・無理に町にしないでよい。

【沢海地区】

- ・「町」になれば具体的にどのような違いがあるのか、村民各層との徹底した論議が必要である。
- ・自然環境に恵まれ、個性ある「村」であっても良いのではないか。

【木津地区】

- ・横越という名を残してほしい。
- ・村から町になった場合の長所(地方交付税の増額、ならびに各種税金の軽減)を比較・提示してほしい。

【二本木地区】

- ・町名を「マチ」にするか「チョウ」にするかを改めて有識者による協議で決めた方がよい。

【小杉地区】

- ・町制施行後は様々なイベントを行ってほしい。
- ・町にならなくともよい。

【藤山地区】

- ・村でよい。

【駒込地区】

- ・団地等によりマンモス化した地域の住居表示には、〇丁目〇番地の導入が必要である。